慶応義塾発祥の地を訪ねて
23．6．4

東久留米三田会は来年で創立10周年を迎えます。会員各々が、それなりに齢を重ね、足腰の脆弱さが目立つ今日この頃、明日へ向かってフットワークを良くしようということでウォーキングの会が始まりました。6月4日（土）11名が集まり、先ずは、慶應義塾発祥の地から訪ねてみようということになりました。

1858年（安政5年）中津藩奥平家の中屋敷での蘭学塾が始まりです。
写真は築地明石町（鉄砲洲）聖路加国際病院前のロータリー横の記念碑です。
戊辰戦争の時、上野からの砲音止まぬ最中に、鉄砲洲の塾の講義は休むことなく続いたという150年前の此の地が、慶應義塾の発祥の地であり、今もなお私たち塾員の誇りの原点である独立自尊の精神の源でもあります。

本日参加のウォーカーズ・イレブンは、想いのほか健脚で、築地外市場・浜離宮恩賜庭園横を通り、大門手前の薬学部共立キャンパスを見学の後、増上寺経由で三田山上まで7，8㌔を完歩しました。

三田キャンパスでは、まずは昔懐かしい「幻の門」を通り、「図書館」から「演説館」まで、見るもの目新しい校舎を眺め、若人達の闊歩しているさまを見、それぞれが学生時代の思い出を脳裏に呼び戻しながら・・・40代から70代までの文字通り幾星霜のイレブンが・・・校内を感慨深く歩きました。

最後の圧巻は、南館に新設された「社中交歓萬来舎」での歓談でした。
萬来舎の名の由来は「衆客の来遊に備えた舎」の意で
「議論なすべし談話妨げず・・・来るものは拒まず去る者は留めず、興あらば居れ、興尽くなば去れ、去て客尽きれば明朝の客来を待つ・・・」（小幡篤次郎氏書萬来舎之記　より引用）

世代のちがう同窓のイレブンたちが、スナックをつまみながら、ビールで乾杯、歩いて汗を流した後の心地よい疲れを、萬来舎の快適な環境の中で癒やし、至福のひと時の歓談でもありました。

次回は11月12日（土）天現寺の幼稚舎より福沢先生墓所。女子高などの散策の後、三田キャンパスでビールで乾杯！を予定しています。（10時日比谷線広尾駅集合）

文責　　力久俊治（32年経済卒）

画像をクリックすると拡大してご覧になれます。

芥川龍之介生誕の地

浅野内匠頭邸跡

波除神社
東京の台所、築地外市場にあり、17C中ごろの起立。厄除、航海安全の神。

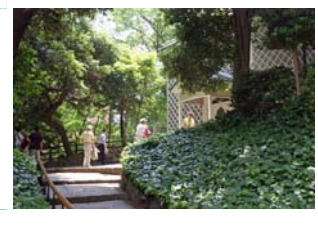
芝神明神社の「め組の喧嘩」
19C初め、芝神明神社の境内で「め組」と相撲力士とが大喧嘩し、寺社奉行・町奉行・勘定奉行の三奉行の協議で裁くという異例の事態を起こした。

薬学部共立キャンパス
平成20年に共立薬科大学と合併。

増上寺と東京タワー
タワーの先端が東日本大地震で傾いたといわれる。

幻の門
「幻の門ここすぎて叡智の丘にわれら立つ」・・堀口大学作詞

東久留米からのお上りさん？達の記念撮影。坂下の守衛さんがわざわざ出向いてシャッターを切ってくれました。



演説館
明治8年（1875）に建設された我が国最初の演説会堂。文化史上の貴重な記念物

社中交歓萬来舎
「衆客の来遊に備えた舎」で現在はOBの塾員と教職員のコミュニティサロンとして利用されている